

令和8年度第1回図書館協議会（議事録要旨）

日時 令和8年7月9日(木) 午後2時～

場所 豊明市立図書館会議室

出席 委員（10名）福岡、柴田、橋本、兼子、尾崎、野本、黒田、杉原、佐藤、松島
教育部長、事務局（3名）

議題

（1）令和7年度事業報告について

資料1「令和7年度実績報告書」に基づき説明。

（2）ギャラリーについて

資料2「ギャラリーのフリースペース（試行）の報告について」に基づき説明。

その他

（1）令和8年度事業計画について

資料3「令和8年度 図書館の事業計画」に基づき説明。

（2）「第2次豊明市子ども読書活動推進計画」の進捗について

資料4「第2次豊明市子ども読書活動推進計画」に基づき説明。

質疑応答等

議題（1）令和7年度事業報告について

委員：定例外行事の「本でボケろ！図書館ゲーム in 春休み」がとても面白そうな内容だが参加者3名とあるが、PR等の周知はどのようにしたのか。

事務局：中高生を対象にボードゲームをやってみたいという職員の提案から、試行で行った。周知は広報での告知が間に合わず、ホームページと公式X、南部公民館の学習スペースにチラシを置くなどした。当日は南部公民館にいた高校生に声をかけ、参加してもらった。

委員：図書館ナイトツアーとは、ハロウィンの夜をイメージしたものか。実際はどのように行なったのか。

事務局：閉館後18時15分から始まり、ハロウィンの仮装はOKで親子10組の参加があった。当日は子どもや職員も仮装して、普段は入れない閉架書庫等を見学するナイトツアーを行った。図書館内に4ヶ所程ハロウィンの飾りを飾り、見学や記念撮影をしてもらった。

委員：市内小中学校との連携の小学校施設見学は4校、児童217人の参加だが、どの学校が見学に来たか。子どもたちが図書館に来るのは歩くなどの手段しかないので、どうしても館小学校や沓掛小学校の参加はなかなか難しく、バスを使えたら来られるのではないかと思う。学校図書館と図書館の所蔵冊数は違い、見るだけでも子どもたちの世界が広がっていき、たくさんの本との出会い

や触れ合いがある。小さい頃は1人で来れないが、施設見学に来たら家で親に図書館に連れて行ってとか、中学生以降になれば自分で自転車に乗って来たりとか手段はあると思うので、小さい頃から本好きになってもらい、いろんな本があることを子どもたちに教えて欲しい。また、職場体験は栄中学校と豊明中学校だけだが、沓掛中学校はしていないのか。

事務局：申し込みはあるが2日間のうち1日が館内整理日と重なるため、1日しか職場体験ができない。館内整理日は図書館が普段できない仕事をしており、職場体験を受け入れる体制が整っていないため、最近は2校のみ。

先程の質問の小学校施設見学4校は、毎年同じ三崎、大宮、二村台、豊明の4つの小学校で、歩いて来れる学校になる。バスの話も出ているが、全員一緒に乗れる大きなバスが難しく、学校とのカリキュラムの調整も必要かと思う。引き続き、施設見学や職場体験を行っていることを教育委員会にアピールしていく。

委員：同じ豊明市内の小学校で、距離があって危険だから行けないとかは、子どもたちにも平等性を欠くと思うので、何かいい解決方法がないかとも思っている。ぜひ良い経験ができるように、前向きに検討を進めてほしいと思う。

委員：施設見学の対象年齢は決まっているのか。

事務局：小学2年生か3年生のカリキュラムの中に、市内の公共施設見学がある。

委員：新しい行事「ハッピー読みくじ2026」「楽しい終活セミナー」等は、何か特別なPRはしたのか教えてほしい。

事務局：「楽しい終活セミナー」は他の講座と同じく広報とホームページ、公式X、館内ポスターとチラシでPRをした。終活とついているように対象がシニア向けで人気のあるテーマだと分析している。「ハッピーよみくじ」は1月に行ったイベントだが、特にPRをしておらず、受付前のテーブルにみくじ筒を手づくりして置いた。来館してそれを見た子どもたちが振るという、少し遊び要素があったので参加人数が増えたと思う。

議題（2）ギャラリーについて

委員：ハイブリッド型の運用とあるが、ハイブリッドの意味は誰も展示しない期間に図書館独自のスペースとするのか。今回の展示は壁面に絵が飾られていて、真ん中の広いスペースは使用していなかったもので、そこにテーブルやソファとかを置くことも可能と思う。ただ、展示する方がそれを望むか望まないかにもよるし展示物が多いときは難しいと思うが、展示物があるときはテーブルやソファを置くこと自体はだめなのか。

事務局：真ん中のガラスケースを使う団体は、年に5団体くらいある。また、ガラスケースが中央にあると、うまくギャラリーの空間を活用することが難しいと考えている。事務局の目指すハイブリッド型は、展示しない期間だけフリースペースとするのではなく、ガラスケースの場所をなんとか空け、常にその場でくつ

ろげる場所を創出するところを目指し考えている。

委員：私もそれは大賛成。前から図書館は少しお堅いイメージで、図書館に入るとちょっと気を引き締めて静かにしなきゃいけない。お母さんが小さい子に静かにしてねという感じがあるので、もう少し気を緩めるようなスペースが欲しいと思っていた。そういう場所ができるのはとても良いことだと望んでいる。

委員：展示する側や今まで通りを望んでいる方は、静かにゆっくり作品を見たいと思う。展示場所が他だとお金がかかるから、毎年図書館で展示したいと思うと考えると難しいのでは。私は作品を静かな場所でゆっくり見たい派なので、意見を出した。

委員：作品を展示される人は心を込めて作った大切なものを展示すると思うので、もしこれを両方やる場合は、長年展示をしていた団体としっかり意見交換を行いその団体の方たちの気持ちを汲んで行っていくことが一番良いと思う。

委員：近隣図書館を見ると、だんだん提案のあったハイブリッド型に移行しつつある状況である。特にこちらが昭和51年の建造物で古いが、その中で子どもたちも友達同士でゆっくり話したり、飲食したり、マナーにも気をつけながら共存して過ごせるようなスペースが図書館にはないので、今回のフリースペース、名前も展示室からギャラリーに変えて、やはり昔のままではなく、少しずつ現状に合わせた形でやっていくのもありだと感じている。中央のところのガラスケースにすごい圧迫感があるので一部でも撤去して、先に話のあった展示する方も、お互いに歩み寄りながらやっていくことが大事になる。展示する方も見に来た方も、展示物について話をしてもいいよっていう場所であって欲しいという気持ちもある。すぐには難しいが、4月14日から5月4日のフリースペースで子どもたちも悪ふざけとかはなかったと聞いているので、ギャラリーの運用を少し緩和して、子ども連れのお母さんもちょっと安心してゆっくり休んだりとか、高齢者も本を借りに来たが少し疲れた時にちょっと休める雰囲気があるスペースも大事ではないかと思う。

委員：親子の居場所づくりで、大事なところかと思う。本に触れる機会としてそういうスペースを設けてあると、図書館に来やすいし足が運びやすいと思う。高齢者もやはり図書館は涼しくて、暑くなってきた中で、涼みながら絵画も見れるスペースもあると、ゆったりした気持ちになれると思う。そこも兼ねつつ今後の大事な図書館の役割の1つかと。

委員：展示スペースとフリースペースは1ヶ所しかだめなのか。高校生が結構図書館に勉強しに行くが、午前中に来て、一旦お昼に帰り、午後また来る。ちょっと何か食べれるスペースがあると楽だと思う。子どもたちの話が多かったと思うが、高校生がそういうところに入るのはちょっと勇気が要ると思うので、もし2ヶ所あれば良いと思う。

委員：ギャラリー奥に休憩室があり食べる場所はあるが、行きづらそう。

委員：例えばこれからの季節、学習室に勉強しに来る中高生たちがお昼を食べれる場

所を、夏休み中の空いている部屋で飲食に開放することは無理か。

事務局：夏休みに学習室が満席になった時は、会議室を第2の学習室として開放するため、空いている部屋を飲食スペースとするのは難しいと考える。

委員：暑い中お昼を食べるだけに、家に帰ったりどこかに出かけるのはちょっとかわいそうなので、例えば視聴覚室でお昼休憩できるようなスペースになれば嬉しいと思う。図書館の行事があるで、スペース的に余裕がなければ仕方ない。

事務局：今回は色々な意見をいただきたくて、今答えを決めるわけではない。展示の方、飲食したい方、読み聞かせとか子どもをちょっと休憩させたい等の色々な要望がある中でどの形が一番良いかを、皆さんの意見を聞いて色々試しながら作っていききたいと思う。視聴覚室で飲食する場合、例えば今日は使えるけど次の日は使えないとかがよいかどうかというようなことも含め、意見をもらう中で考えることができるので、何か思うことがあれば教えてほしい。

委員：ギャラリーで夏休み中に期間限定で飲食できるといい。あと、ギャラリーの展示中に椅子とかあると、図書館の帰りに立ち寄った時にとっても助かる。

委員：今度キッチンカーが来るが、その日に購入した人はギャラリー奥の休憩室を飲食スペースとして考えているのか。

事務局：案内では基本的に持ち帰りとしているが、夏の暑いときに外で食べるのは難しいと思うので、そのときは飲食スペースを用意したいと考えている。

事務局：他の図書館でも今はいろんな形がある。豊明の図書館の建物は古い設計だが、できるだけ柔軟な使い方で、今までやっていない新しいことをいろいろやってみてアップデートしていきたいと思っている。

委員長：「ギャラリーのフリースペース（試行）の報告について」の5. 今後のギャラリーのあり方について、この通り進めていきたいと思うがよろしいか。
委員より反対は無かったため、この通り進めていくこととする。

その他

（1）令和8年度事業計画について

委員：中高生の居場所づくりとして、部活も縮小化された授業後に図書館は居場所として良いと思う。中高生の活字に触れ合うきっかけとして、マンガはとても入りやすく、内容的にもとてもいいマンガもあるので、マンガの蔵書をもう少し増やして欲しいという要望をしたが、8年度はどうか。

事務局：本館は子ども向けにドラえもんや名探偵コナンなど、小さい子どもも触れ合えるようなマンガを置いている。中高生向きとしては、南部公民館図書室にクラウドファンディング等の寄附金でマンガを一気に増やした時期があり、引き続き増やしていくつもりだが、そちらの案内を充実させていく予定。

委員：児童発達支援センターなどは、集中力がどうしても持てない子どもたちが多く、お母さんたちも図書館に足を運びづらい。図書館に行けない人たちのために、読み聞かせの大切さを、年1回でも伝える機会を作ることを検討してほしい。

い。お母さんと子どもが一緒に講座に参加する感じで本を読み聞かせを。どうしても子どもたちの行動を懸念して、足が運びにくいお母さん方が多いので、そういう機会を作ってもらえるといいと思う。

事務局：場所の提供をお願いして、検討していく。

委員：お母さんたちにこういう本を選べば良いとか、声色をこういうふうに使うと子どもたちの集中力が少しずつ得られるとかがわかってくると、今後の家庭でのやりとりにも、プラスになって良いと思う。

委員：教育支援センターには、学校に行くのとか集団の中に入るのがとか、人がたくさんいるところに来るのが苦手な子どもたちが多く、教育支援センターにも読み聞かせの派遣をお願いすることはできるのか。

事務局：読み聞かせボランティアの派遣をしている。

委員：思春期を迎える子や心がざわざわする子どもには、すごく癒し効果があると思う。専門の方にやってもらえると、大人でも心が癒されて幸せな時間になる。事前に何人来ますと言えない部分があるが、それでも派遣してもらえたらありがたい。

事務局：派遣依頼書があるので案内する。

委員：読み聞かせをする方が「今日は栄小学校で読み聞かせがあるから体調調整して頑張ってきます。」とか、子どもたちもその翌日くらいに聞くと「楽しかった～」とか言っているので、ぜひそういう機会ができると良いと思う。

委員：ヤングアダルトコーナーとはどんなものを考えているのか。不登校の子は心に不安な気持ちがいっぱいであるので、何か参考とか心が癒されるとか自分に自信が持てるとか、自分は自分でいいんだって思えるようなものがあると良いと常々思っている。

事務局：ヤングアダルトコーナーは、図書館1階カウンターの右奥にコーナーを作っている。ヤングアダルトは中高生位の年代の子たちに向けた本だが、児童書から一般書へのかけ橋になるような年代のため、そこに集めてある本も児童書から読みやすい本が揃えてあり、手に取りやすい本を集めている。その中に、面置きしてあるコーナーが2つあり、1つは就職や進学に関係する本を常設している。もう1つは、3ヶ月毎にテーマを決め貸出展示を行っている。7月から9月は、アジア競技大会にあわせてスポーツに関する本を集めたコーナーになっている。

委員：エレベーターの案内をできたらヤングアダルトコーナーの柱の辺りに付けられないか。小さい案内はあるが、エレベーターの場所がわかりにくいので、それを大きくすることができればお願いしたい。

事務局：検討する。

（2）「第2次豊明市子ども読書活動推進計画」の進捗について

事務局：4月から計画を公表している。この計画をもとに4月以降、教育委員会、豊明

市議会、校長会、園長会、館長会へ計画の説明をした。施策では今年度新規事業として、5月からマタニティブック事業を開始、参加者の感想から読み聞かせをするきっかけになっているよう。7月には市立図書館と学校司書との連絡協議会を行い双方で連携できることを検討していく予定。